2006-06

札響くらぶ

第36号

発行／札響くらぶ
（財）札幌交響楽団内
札幌市中央区中島公園1番15号
（札幌コンサートホール内）

06年度札響くらぶ総会が行われました

新役員も決定　来賓も豪華

本年度の総会が、４月22日（土）午後５時30分から札幌コンサートホール・キタラの２階大会議室で開催されました。今年は２年に一度の役員改選の年でもあり、会員の皆様の多数のご出席を願っていましたが、定期演奏会の２日目終了後ということもあり、例年通り約50名の会員の出席となりました。

総会は、事務局からの17年度活動報告、会計決算報告、そして18年度の活動計画、予算案がすべて満場一致で承認され、役員改選では、上田会長の再任、新会計監査に佐藤慶一さん、西川喜佐子さんが選出されました。総会の報告につては既に会員の皆様のお手も手に届いていることと思いますが、４ページにその概要を掲載致します。

今年の総会で特筆すべきことは、来賓としてお出でいただいた方々です。例年のように札幌交響楽団専務理事西村善信さん、事務局長宮澤敏夫さん、今年４月に事業部長に就任された宮下良介さんに加え、初めて大平まゆみ・伊藤亮太郎の両コンサートマスターが、演奏会修了直後でお疲れにもかかわらずご出定席くださいました。

総会終了後、これも初めての試みでしたが、同会場でささやかな会員懇親会を実施しました。その席には、何と尾高忠明音楽監督ご夫妻も駆けつけて下さり、ご出席の会員・スタッフ一同大感激でした。交流会では定着した「色紙販売」も行い、ご出席の皆さんは尾高さんや、両コンサートマスター、更には上田会長にもサインをしていただき、大喜びでした。色紙の売りあげはもちろん、即札響に寄付させていただきました。本当に和やかな、手作りの懇親会で、心温まるひとときでした。

札響くらぶは札響を愛する人達の札響応援団です

コンマスに聞く

札響の歴史伝統を守り より良いオケを目指したい!!

札幌交響楽団
コンサートマスター

伊藤 亮太郎 さん
いとう りょうたろう

©MASAHIDE SATO

伊藤亮太郎さんのプロフィール

桐朋学園ソリスト・ディプロマコース修了。1989年高校1年生で日本音楽コンクール・ヴァイオリン部門第1位。併せて黒柳賞、レウカディア賞を受賞。アスペン音楽祭にてドロシー・ディレイ女史に師事。92年第1回ストラデヴァリウス・コンクール優勝。93年マリア・カナルス国際コンクール第2位。94年チャイコフスキー国際コンクールでディプロマ賞受賞。ロンドンに留学し、ロンドン、アムステルダムなどでリサイタルを行う。97年ストリング・クァルテット「ＡＲＣＯ」を結成し室内楽の分野でも活躍。2000年秋にビクターエンターテイメントより「アンダンテ・カンタービレ」をリリース。02年サントリーホールにおいてリサイタルを開催し、内外の高い評価を得る。99年よりサイトウキネンオーケストラに参加。ヴァイオリンを江藤俊哉、澤和樹、堀正文、ベラ・カナート、ジョルジュ・パウクの各氏に、室内楽をアイザック・スターン、東京クァルテット、山崎伸子、原田幸一郎、高関健の各氏に師事。ソロ、室内楽、ゲストコンサートマスターなど多方面に活躍し、現在最も期待されるヴァイオリニストである。05年4月札幌交響楽団コンサートマスターに就任。

コンサートマスターに就任して1年。伊藤さんに5月3日、巨匠スクロヴァチェフスキの指揮での演奏会でコンマスを務められた直後、キタラでお話を伺いました。

―― ヴァイオリンを始められたきっかけからお話ください。

伊藤 母親の方針で、水泳や算盤と一緒に、習い事として始めました。始めたのは5歳で、最初は鈴木メソッドに入りました。それがきっかけでした。

―― 本格的にやり出したのは。

伊藤 鈴木メソッドをやめたのは小学校4年でしたが、音楽家になろうと決めたのは、桐朋学園の高校に進学する時でした。その前から先生についてはいましたが、はっきり決めたのはその時です。

―― 札響に入団されるまでの楽歴を簡単にお聞かせください。

伊藤 桐朋でディプロマ・コースに進み、途中1年間ロンドンに留学しました。ディプロマの修了試験を受けなければなりませんので、東京に帰ってきて、もうプロとして活躍していた仲間と一緒にカルテットを結成して活動を始めました。ロンドンの先生から「若い頃からしっかりと室内楽をやりなさい」と勧められていましたし、ジョルジュ・パウクというハンガリー人の先生に習っていましたが、先生も若い時に自分のカルテットを作っていて「室内楽をやっていると、将来ソロでもオーケストラでもやっていける。とにかく基本は室内楽で」と言われていました。オーケストラにゲストで出たり、小澤征爾さんの齋藤記念オーケストラに参加したりと、色々な仕事をしましたが、基本は主にカルテットでの活動でした。で、ちょうど札響に来る前に、カルテットのヴィオリストがドイツに就職することになりました。それで、しばらくは継続的に活動は出来ないので、どうしようかなと思っている時に札響からお話がありました。ちょうど、自分が本拠にして勉強するホームグランドを持ちたいと思っていた良いタイミングで、札響に来ることに決めました。

―― 札響のイメージはいかがでしたか。

伊藤 正直言って、私は札響は全然知りませんでした。札響のお話があって初めて北海道に来

たくらいで、九州なんかではよく音楽会をやっていましたが、北海道には来たこともありませんでした。2年前に尾高先生の「第九」に呼ばれて来て「こんないいオケだったのか」と思い、キタラでしたから「恵まれているな」と思ったのが第一印象でした。入るまでは、正直、申し訳ありませんが、聴いたことはありませんでした。

―― 入ってからの印象はいかがですか。

伊藤 皆さん真面目ですね。きちんと練習してきますし。音楽に対して真摯な人が多いですから、私はやりやすいです。いい仲間に恵まれたと思っています。

―― コンマスとしての抱負はいかがですか。

伊藤 今までの札響の歴史もあると思います。ゲストでいろんなオケを経験しましたが、どのオケにも風土というかカラーがあって、札響の音というかカラーというものは今までのままでいてほしいと思っています。私が入ることによって、音造りとかカラーはあまり変えたくないと思っています。今までの歴史を壊さないで、将来に向かって守り育てていきたいと思います。より輝かしい音になって、より良いオケになりたいと皆さん思っていらっしゃると思いますので、そのためにリーダーシップをとっていきたいと思っています。

―― 今年は、名曲シリーズでメンデルスゾーンのコンチェルトのソリスト、定期では「シェエラザード」のコンマスを務められますが。

伊藤 メンデルスゾーンのコンチェルトは、本当に名曲中の名曲です。指揮者のビヒラーさんは若い頃からカルテットをやっておられ、我々にとっては神様のような存在です。彼の棒のもとでやらせていただけるのは非常に光栄ですし、頑張ってやらせていただきたいと思っています。シェエラザードは、「英雄の生涯」などと並んで、コンサートマスター冥利に尽きる曲ですし、コンサートマスターの音も分かっていただけますから、凄く楽しみにしています。

―― 将来の目標をお聞かせください。

伊藤 私はオーケストラが大好きですし、人とアンサンブルをするのが好きです。一年やってみて、自分はオケにあっていると思っていますが、札響にいようが、どこにいようが、アンサンブルは追求し続けて、極めたいと思っています。もちろん、ソロも大事なんで、いろいろなことにチャレンジしてみたいと思います。

―― ところで、一年暮らしてみて北海道での生活はいかがですか。

伊藤 最初来た時は寒いし「何ちゅう所だ」と思ったんですが、暮らしてみると、雪は多いですが、それを除けば気候も結構暮らしやすいと思います。楽器にもいいんですよね、夏場じめじめしていませんから。ヨーロッパに似ているなと思うところもありますし、食べ物も美味しいし、札幌は街としては好きになりました。住めば都、ですね。

―― 趣味はお持ちですか。

伊藤 体を動かすことは好きです。本当なら、水泳をやったり、ジムへ通ったりしたいのですが、時間がないので、散歩をしています。散歩するのは好きで、札幌の街の中をぐるぐる歩いています。住んでるマンションはキタラのすぐ近くなのですが、札幌駅の方まで歩いて行ったりしています。あとは、趣味といえば、本を読むという程度ですね。

―― ファンの皆さんに一言。

伊藤 私も一年たって札響のことも分かってきましたし、今年は札幌にいる期間も長くなりますので、ますます楽しくオーケストラの音を楽しんでいただきたいなと思っています。これからもますます応援をよろしくお願いします。

（佐藤良次）

平成18年度札響くらぶ総会より

本年度の総会で承認された事項の内、札響くらぶ会則の一部改正、「創立10周年に向けての札響くらぶビジョン策定」、役員についてその概要をお伝えします。会員の皆様には「総会報告」がすでに送られておりますので、そちらも併せてご覧下さい。

●会則の一部改正

既に新聞でも報道されましたが、札響くらぶ創立10周年を迎え記念行事もよいが、くらぶとしての札響支援が、会員にも楽員にも一層目に見えるような取り組みをしようという趣旨から、「楽譜購入支援」が提案されました。これは、札響が取り組んでいる学校や病院等を訪問しての教育プログラムや、ミニコンサートなどのボランティア活動に使用する楽譜を中心に、札響が必要としている年間の楽譜購入資金の一部を援助しようというものです。

その具体的方法として、会費に関する会則を一部改正し、ホスト会員の会費を500円値上げして2,500円とし(ファミリー会員会費1,000円はそのまま)、値上げした500円を支援金に当てるというものです。ホスト会員500人分の250,000円に、会員の皆様にお願いした追加支援金の応じて下さった金額、札響支援特別会計からの一部支出を合わせ、毎年50万円を目標に支援していくことになりました。

ありがたいことに、現在、追加支援金に応じて下さった方々からの入金が続いています。来年度以降のご協力をお願い申し上げます。また、札響支援特別会計も安定するよう、8ページ掲載の「ＦＲＯＭ　札響くらぶ」でも呼びかけておりますが、「札響くらぶコンサート」の札響くらぶ割当分のチケット購入のご協力もよろしくお願い致します。

●創立10周年に向けての札響くらぶビジョン

昨年度１年間、スタッフ内のプロジェクト・チームで、「市民や会員の目に見える」「会員参加型の」札響くらぶを目指す指針を策定し、総会で承認されました。既に実行に入ったものも、今後の取り組みとなるものもありますが、当面の活動の指針となるものです。以下に、その９項目を簡単にご紹介します。

(1) **「札響くらぶコンサート」の継続**～札響支援特別会計安定のためにも、札響と共催で継続。
(2) **「楽譜支援」の導入**～前述の通り、既に実施されました。
(3) **札響くらぶ会員・定期会員の拡大**～更に具体策を探っていきます。
(4) **簡易な会員証の発行**～今年度から発行するための準備中です。
(5) **もっと参加しやすい交流会を**～安価な手作りの交流会などを検討中です。
(6) **日本プロオーケストラファンクラブ協議会の設立**～11月に札幌で設立準備会が行われます。
(7) **札響くらぶホームページの充実**～専門の事務局次長を中心に進めます。
(8) **会員対象のＣＤミニコンサート**～実施の道を探っています。
(9) **運営スタッフの増員**～随時募集しています。ご協力ください。

●新役員の紹介

総会選出の役員、会長指名の役員が次の通り決定致しました。

・総会選出役員

会　　長　上田　文雄（再）　　会計監査　佐藤　慶一（新）、西川　喜佐子（新）

・会長指名役員

副　会　長　鈴木　美保（再）、西川　吉武（新）、佐藤　良次（新）
事務局長　武藤　義典（新）
事務局次長　佐藤　紀子、田山　登代美、深井　雅昭、松尾　英樹、佐々木　保（全員新任）
会　　計　前田　郁子（再）、笠倉　聖子（再）

札響物語　35

弦楽器の名器

（ストラディヴァリ、ガルネリ・デル・ジェス）

5月16日、ニューヨークのクリスティーズの競売で、アントニオ・ストラディバリ「ハンマー」が354万4,000ドル（約3億9,000万円）で落札された。このヴァイオリンは1707年製作の名器で、米国を拠点に活動するヴァイオリニスト竹沢恭子が貸与を受け、1年前まで使用していた、と発表になった。

ヴァイオリンの名器と言えばアマティ、ストラディヴァリ(以下ストラド)、ガルネリ・デル・ジェスに代表される。実は札響定期や北電ファミリーコンサートで共演する日本人ヴァイオリン奏者と伴にもしばしば登場している。

札響創立の年1961年10月第2回定期にソリストとして登場した美人ヴァイオリニスト諏訪根自子は、小説「総統のストラディヴァリウス」にもなったナチス・ドイツから贈られたストラドを携えてメデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を演奏した。美しい人が繊細な美しい音色を聴かせた。ヴァイオリンに聞き惚れているのか奏でる姿に見とれていたのか、客席は異様に静かだった。

私が若い頃、ヴァイオリニスト辻久子の父親が、自宅を手放して娘のためにストラドを買った話が新聞に載っていた。1990年3月、辻さんが還暦記念として札響栗山定期に登場し、そのストラドでチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を弾いた。演奏の後で「ストラドは強い力を要求する楽器なので草臥れるのよ」と語っていた。名器は鳴らすのが大変なのだ。

不幸な事件で東京芸術大学の教授を退職した海野義雄も、ストラドを手に入れて半年目に札響と共演した。「まだ充分に鳴っているとは思えないのですが、なんとなくストラドのすごさが分かってきたような気がします」「四畳半で弾いても、2千人以上の大ホールで弾いても変わらなく間近にきこえるようです」「独特のノイズを持っていて、どうもこのノイズが良い音の搬送波になって遠くへ飛ばしているように思います」との事だった。なにかヒントを得たような気がしたが、これで名器の謎が解けるはずはない。弦楽器はよく近鳴りとか遠鳴りするとか言われる。勿論演奏家は遠鳴りする楽器を求めてストラドを手にする。

世界中に百数十本のストラドがあるそうだが日本音楽財団はその約1割を保有している。金満日本と言われるかも分からないが、名器が日本に有ると思うと、自分の生活レヴェルは別にして、心が豊かになるような気がするのは私だけだろうか。

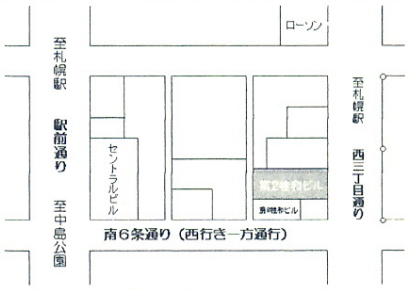
（竹津宜男）

from 「札響くらぶ」

札響くらぶ会員の溜り場ができました

札響くらぶ会員が経営しているススキノのお店ですが、この度、札響くらぶ会員のために特別料金で開放し、楽しませてくれることになりました。

店名：りつこ
場所：南6西3（東向き）第2桂和ビル2F　011-511-6222
料金：お一人2，500円（カラオケ付き）
飲み物：ウィスキー、焼酎、ウーロン茶が飲み放題。
ビール、ジュースは2杯まで。持ち込み可。
つまみ：お菓子、枝豆等。
ただし、2時間以内、上記飲み物とつまみ以外は別途料金となります。

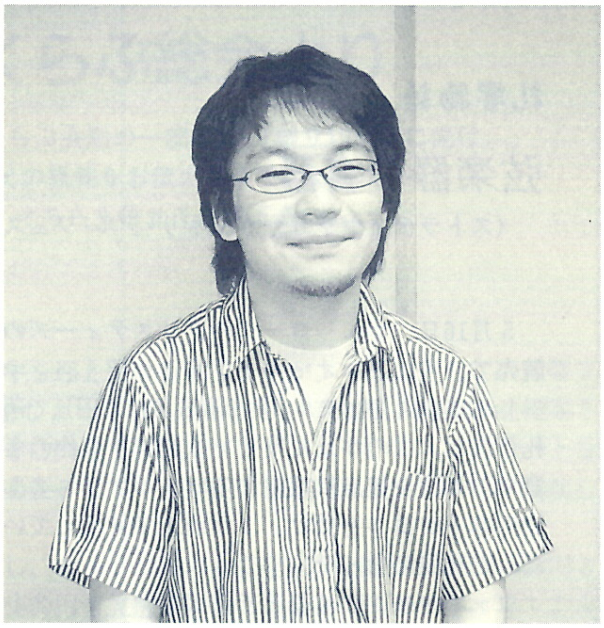


現在、会員証の発行を準備中ですが、それまでは、ご利用に当たっては、事前に札響くらぶ会員であること、氏名、会員番号を告げてください。また、人数が多くなる場合は事前に電話をしてください。

PLAYER'S TALK

札幌交響楽団　ティンパニー・打楽器首席奏者

武藤（むとう） 厚志（あつし） さん



ご出身は

東京生まれの東京育ちです。

楽器を始められたきっかけは

子どもの頃に習い事で始めた、というようなことはなくて、中学校の時にブラスバンドに入ったのがきっかけです。入学した時に、ブラスバンドの楽器紹介がありました。いろいろな楽器を、少しずつ吹いて紹介してくれるのですが、全然興味は持てず、音楽をやる気はなく、バスケットでもと思っていました。で、最後に打楽器の紹介でドラムマーチをやった瞬間に、今でも忘れられないくらいの衝撃を受けました。鮮明に、バーンと脳に来たような感じでした。これは格好いいという感じで、もう即入部することにしました。

その後札響に入団されるまでは

中高一貫の学校でしたから６年間ブラスバンド部に所属して活動しました。高校２年あたりから受験を考えて、今N響にいらっしゃる久保昌一先生に師事し始めまして、東京音大にティンパニーで受験して入学しました。大学では、ティンパニーだけではなく小太鼓もシンバルもマリンバのような鍵盤楽器も、あらゆる打楽器を学びました。大学卒業と同時に、富山にある桐朋オーケストラ・アカデミーに入学しました。２年間アカデミーで勉強しました。

札響入団は

打楽器の場合は、打楽器奏者での募集とティンパニー奏者での募集に別れますが、私はティパニー奏者としてやっていきたかったので、どのオーケストラでも一人か、多くても二人しかいませんので、非常に狭き門ですが、丁度アカデミーの２年の時、夏に札響のオーディションがありまして、札響の本拠の土地柄やメンバーに強く魅力を感じていましたので、飛び込み状態で受けました。幸いに合格でき、今年の１月に入団しました。

入団されて札響はいかがでしたか

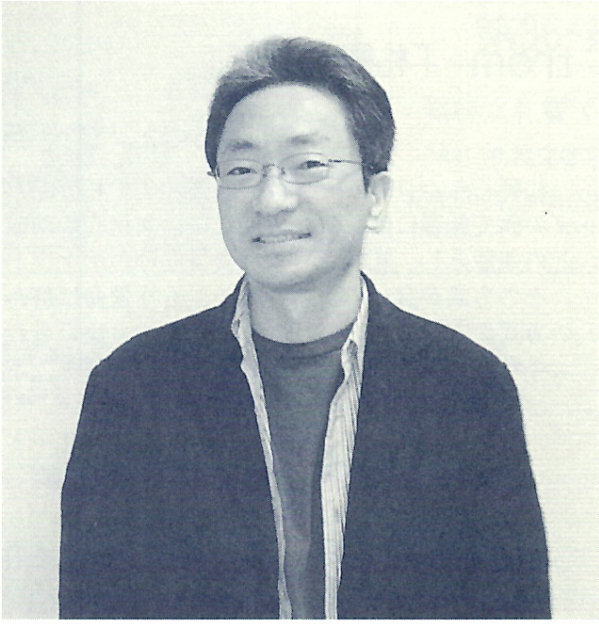
非常に透明感のあるサウンドと、人間関係の温かさのあるオケというイメージを持っていましたが、やっぱりそうだったと強く感じました。どなたと話してみても、温かく迎え入れて下さって、このオケの中で自分が充実していくのも感じられます。私はまだ年が若いのですが、オーケストラに入るからには一仲間団員として見てもらいたいという気持ちがありました。オケによっては年下ということで上下関係を押しつけられることもあるようで、もしそういう環境ならいやだな、と思っていましたが、入ってみるとそういうことは全くなくて「君のやりたい音楽を優先してほしい。そうしなければ何も始まらない」と言われ、非常にありがたかったです。

半年たっての抱負をお聞かせください

音楽はいろいろに考えられていますが、私は生活に根ざしたものと考えています。ですから音楽が生活そのもので、音を追求することは人、生活を豊かにします。もっと技術的にも精神的にも向上して、一つ一つの音が更に厚みをますように、どの公演も大切に取り組んでいます。ティンパニーという楽器は打楽器なのに音程があります。クラシック音楽では多用されますが、より強く音楽性を出すことが出来、感じ取って頂けたらといつも思っています。また、打楽器というのは体で感じ取る要素の強い楽器です。あの時の演奏は口では言えないが、体が覚えているというように言われると凄く嬉く、そうなりたいと思っています。

札幌交響楽団　ヴィオラ副首席奏者

遠藤（えんどう） 幸男（ゆきお） さん



ご出身は

秋田県の男鹿市です。男鹿はご存知の通り「なまはげ」で有名なところで、私も子供の頃は恐ろしかったですよ。

ヴィオラは

ちょっと話は長くなりますが、私は母が中学校の音楽教師ということもあり、４歳からピアノをやらされました。小学校から私は野球少年でした。野球は選手で、それを一生懸命やりたかったのですが、ピアノの練習を続けるという条件でした。また、小学校の低学年の頃は、ヴァイオリンも習っていました。中学校に入ったら、当然母に習う訳です。それを見越して、家を出たいということを親に話していました。中学校に入って、母の授業を受けましたが、やはり苦痛でした。当時兄が東京の大学に在籍していまして、また私のピアノの先生が東京の方で、その先生に教えを受けるということを口実にして、中学校２年の時に東京に行かせてもらいました。東京に行ってから、高校進学の年齢になり、将来どうしようかということになり、いろいろ考えたのですが、ピアノの先生から「イギリスに留学してみないか」というお話があり、私はそれに飛びつき、親を説得しました。それで、高校に入学して間もなくにロンドンに行きました。それは勿論ピアノということでの留学した。最初の１年はプライベートの学校に行きました。２年目に、大学に入る前の予備校的な音楽学校に入る試験の時、あちらでは副科というのが必修でして、ピアノ以外にも何か楽器をやらなければいけませんでした。それで、昔ヴァイオリンをやったことがあるということで、ヴァイオリンを借りてオーディションを受けました。結果、ピアノで合格したのですが、その時の弦楽器の主任の先生が「将来のことを考えたらヴァイオリンよりもヴィオラをやった方がいろいろ役に立つよ」と勧めてくださいました。それで、その先生の勧めに従ってヴィオラを始めました。16歳頃でした。大学はピアノで入り、卒業しましたが、ヴィオラも続けていました。

その後は

日本に帰ってからは、ヴィオラで生活したいと思うようになり、つてを頼って、当時の新星日響にエキストラでいかせてもらい、その後オーディションを受けて採用してもらいました。それが、オーケストラのプレーヤーになった最初でした。

札響入団のいきさつは

新星日響には８年いました。その間に結婚し、妻も同じ楽団にいましたが、子供が生まれ、当時の新星日響の演奏回数にしても、その他の生活環境にしても、あまりの劣悪な状況に「何とかもう少し良い環境を」という妻の強い希望もありまして、たまたま札響のオーディションがあり、合格できました。1990年でした。

印象深い演奏会は

近いところでは、今月の「キタラ子供の日コンサート」の指揮者スタニスラフ・スクロヴァチェフスキーさんが素晴らしかったです。以前、ロンドンで聴いたカール・ベーム指揮のウィーンフィルの演奏を思い出しました。

今後のご予定　その他を

夏休みに月寒グリーンドームでの催しがありまして、そこで子供達に私がどういう経緯で音楽家になったかを話し、ヴィオラを聴いてもらう催しが予定されています。また、10月にも個人的な演奏会が予定されておりまして、数は限られておりますが、そこでもヴィオラの魅力をおみえになった方々にお伝えしたいと思っております。そして、札響のファンの皆様には、ぜひ演奏会場にお運びいただきたいと思っています。　（佐藤良次）

from 「札響くらぶ」

札響くらぶコンサート　チケットはくらぶだけ

札響くらぶコンサートは、一昨年まで札響くらぶ単独の主催で行った来ました。しかし、実質的に収支の面で札響には貢献していない、文化庁の助成が受けづらい等の理由から、昨年度から札幌交響楽団との共催とし、札響くらぶは会員向けのチケットの販売に責任を持つという方式になりました。

その方式が良いのか悪いのか、もう使命は終わったのではないか等の議論はありましたが、今後もこの方式で実施するということに総会でも決定されました。

今年度のコンサートは、既にご案内の通り、下記の通り実施すことになっております。

公演名：アキラさんの大発見コンサート　未就学のお子様も大歓迎!!
指　揮：宮川　彬良　　うた：茂森　あゆみ（ＮＨＫ 歌のおねえさん）
開催日：８月３日（木）
会　場：札幌コンサートホール　キタラ大ホール
時　間：午前の部　11：30～　　午後の部　14：30（完全入れ替え）
曲　目：大発見マーチ　　マツケンサンバII　他
代　金：一般　2,000円　　中学生以下（乳幼児まで）　1,000円

札響では、赤ちゃんからお祖父ちゃんお祖母ちゃんまで、ということでチケットを販売する一方、共催の札響くらぶにも、午前、午後の部それぞれ250枚、計500枚を会員向けに販売してほしいとの依頼があり、会員の皆様には５月にご案内をいたしました。その後、プレイガイドでの販売は極めて順調に推移し、５月26日でプレイガイド発売分は、午前、午後共に完売致しました。現在、このチケットを入手できるのは札響くらぶ会員向け発売分のみとなりました。

午前、午後の分共にまだ売れ残っております。会員の皆様とそのご家族だけではなく、お知り合い、お友達などにもご紹介の上、チケット購入にご協力ください。

このチケットの販売により、札響から販売手数料が入り、それが札響支援特別会計の原資になっています。札響くらぶとしての同会計への繰入金は、このチケット販売手数料と会員からの寄付以外にはありません。その点もご理解の上、チケット購入にご協力くださいますよう、お願い致します。

音楽ボランティア全国大会に協力します

ＰＭＦの開催に合わせて、今年７月末に、音楽に関するボランティアの全国大会が札幌で開催されます。会員の皆様も、ポスターやチラシなどで目にされたことと思います。この大会に札響くらぶも、大会の実施的な運営を担われるＰＭＦのボランティア組織「ハーモニー」の要請を受け、協力することになりました。札響くらぶが担当するのは、「オーケストラにおけるボランティア」という分野になります。

5,000円の参加料で参加されますと、ゲルギエフ指揮のピクニック・コンサートや、分科会、懇親会などを楽しむことが出来ます。キタラなどでチラシをご確認の上、積極的にご参加ください。

編集後記

伊藤亮太郎さん。もの静かで、爽やかな好青年でした。武藤厚志さん。年齢以上にしっかりとした意志を持った、これも好青年でした。

思えばここ数年、札響には若い力が続々と入っています。そういう方々にインタビューさせていただく度に、今時の若者とは随分違うな、という印象を持ちます。別に、若さが無くて暗いというようなことではなく、逆に明るくしっかりと自分の人生を見据えて生きているという感じです。やはり、札響に入団するくらいの人は、常人とは比べ物にならないくらいに幼少の頃からステップを踏んできたのだなあ、という感慨を覚えます。そういう若い才能豊かな人達を、ベテラン楽員が温かく見守り、育てていくという今の札響のあり方に、強い共感を覚えます。

（佐藤良次）